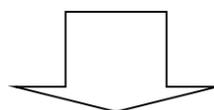


学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1 年	2 年	3 年
<ul style="list-style-type: none"> ・比較的優しい内容を扱っていることもあり、多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。その中でも、理解が早く余裕のある生徒と時間を必要とする生徒がいる。提出課題はきちんと取り組める生徒が多い。 ・基礎的な内容の問題や計算問題は多くの生徒が理解しているが、複雑に見える四則計算や指数を含む計算問題は課題が見受けられる。 ・定期考査の正答率「見方・考え方約46%」「技能約73%」「知識・理解約70%」であった。「見方・考え方」の正答率をあげるには、標準的問題を解く力をつけた上で発展的な問題に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学ぶ基本的概念や正負の数や文字式の計算などは習得できている。 ・落ち着いて授業に取り組んでいる。 ・文章から規則性を見つけて式を作ったり、割合の考え方をを用いて方程式を作ることが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて授業に取り組んでいる。 ・授業でわからなかったことや問題集で出来なかったことを質問して理解しようと努力するかしないかで、その後の取り組みや結果に影響が出ている。 ・考え方を問われる問題に対して、苦手意識を持ちながらも、あきらめずに取り組む生徒が多くなった。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・要点を整理すること ・例題を丁寧に説明すること ・問題演習の解説 <p>に力を入れていくことを今後も継続していく。</p> <p>発展的な内容の課題を扱うときは、じっくり取り組めるように時間を設けること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いやすい問題の解説をより丁寧に行うこと。 ・問題演習の時間をできるだけ多く取り、苦手な生徒への個別指導の時間を確保していること。 <p>同時に、得意な生徒には、問題集を活用し、発展的な問題に触れる機会をさらにつくこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・章末問題を利用しながら、問題の読み取り方や、既習事項とのつながりについて、理解を深めさせる。 <p>その上で、再度類題を自分の力で解けるか、確認できる機会を設ける。</p>
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な例題はほとんどの生徒が授業内で理解できており、繰り返し演習していくことで理解力を深めている。 ・例題において、途中式を書いて丁寧に解くことを意識させている。黒板に解答を書かせる際にも途中式を書かせ、考え方が正しいか確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースについては、基本の定着を徹底し、繰り返し演習をさせていく。 ・標準コースにおいては、基本演習をするとともに、答えを出すだけでなく、その考え方の過程を意識させて解答させる。 ・文章問題から式を作る際に、図や表を用いていろいろな見方や考え方があることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に単元テストを行い、復習する機会をとる。 ・理解できている生徒には、他の考え方や解法がないか考えさせ、いろいろな見方に気づかせるようにする。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学ぶ基本的な概念や正負の数や文字式の計算などはな いために、学習内容の定着が難しい生徒がいる。 ・例題で取り上げた問題についてはほとんどの生徒が演習で正解 きている。 ・文章題など長めの文章から必要な情報を読み取り問題を解くこ に苦手意識がある。なかなか前向きに取り組もうとしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視で、途中式を書くように指導し、解答の間違いを自分でみつけられるようにさせる。 ・学習した関連問題を教科書や問題集で直後にやるように指導する。 ・単元テストや定期考査において、必ず間違い直しをするように指導し、見直しする習慣と、分からない問題をそのままにしない習慣をつける。 ・基礎コースでは計算など基本の定着を目標とし、既習内容の確認を行いながら反復練習する。 ・標準コースでは、応用問題を多めに演習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解の遅めの生徒については。個別指導の時間を放課後や昼休みに取る。 ・内容の理解ができていない生徒へは、板書にて、みんなにわかりやすい丁寧な解答を書くよう指導する。また、口頭で解説させる機会も設ける。